



牛津小学校 学校だより

「自分を、友達を、地域を大切にし、未来に向けて伸びゆく津保美の子の育成」

児童数436名(9/1現在) 第12号

令和元年9月20日 校長 田辺

ミシンボランティアの皆様、ありがとうございます

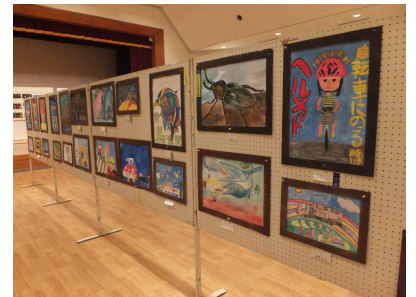


5・6年生家庭科の学習(エプロンづくり、リュックづくり)にボランティアとしてミシンの使い方の指導補助に、入っていただきました。PTAの学年役員さんの声かけによって、5・6年生の保護者を中心に参加いただいた皆さん、約30名(5・6年合わせて)の方にお手伝いいただきました。職員のみでは機械(ミシン)操作や糸かけなど行き届かないところがあるのですが、各グループで細かくご指導していただき、心よりお礼申し上げます。

ほとんどの子ども達がミシンを使つての裁縫は初めてのようでしたが、おかげさまで子どもたちは楽しんで取り組んでいました。「子ども達は気持ちを針に集中して、縫い込むことができていました。」と、報告を受けました。地域の方、保護者の方のご協力に、感謝の気持ちで一杯です。

第55回うしづ子どもクラブ 夏期作品展

今回で55回目の開催となった『うしづ子どもクラブ夏期作品展』が8月25日(日)～28日(水)に、牛津公民館ホールで催されました。牛津の子ども達が夏休み期間中に製作した、絵画・毛筆・硬筆・工作・研究などの大作、力作がおよそ500点ほど出品されたそうです。期間中、会場内では「しおりづくり」や「プラバンづくり」などの体験コーナーもあり、本校の子ども達も「とても楽しかった!」と楽しませてもらったようです。



どの作品も子どもたちが一生懸命取り組んだ様子が伝わってきて、感動しました。入場者数も、約450人と大盛況だったようです。夏期作品展を企画・運営された牛津公民館・パレットクラブ牛津様・子どもクラブ様並びに地域の皆様に心からお礼申し上げます。

おめでとう

・数多い作品の中で、特別な賞を3人受賞しました。

「パレットクラブ大賞」 ～～～4年 動くおもちゃ(図工)

「パレットクラブ会長賞」 ～～～3年 クワガタの絵(図工)

「牛津地区青少年育成会長賞」 ～4年 カブトムシの成長記(理科)



ベースを踏んだ 大谷選手が拾った 小さな白いゴミ

ご家庭でも、学校でも「部屋を片付けなさい」あるいは「ごみを拾いなさい。」と言うのは簡単ですが、実践させるのは結構大変です。こんなエピソードを紹介します。

日本のプロ野球選手から、アメリカ・メジャーリーガーとなり活躍している大谷翔平選手の話です。東洋経済オンライン(2018.4.17)に、次のような記事が載っていました。<https://toyokeizai.net/articles/-/216939>

【メジャーの大舞台で、ゴミを拾った大谷翔平「ベースを踏んだ大谷が拾った小さな白いゴミ」】

『昨年の4月のレンジャーズ戦、8回表、大谷(選手)は四球を選んだ。一塁に大谷を置いて、レンジャ

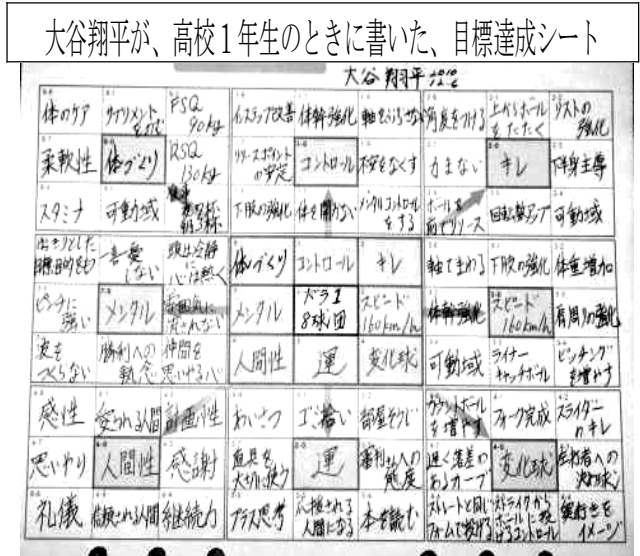
ーズは投手をクリス・マーティンに交代した。昨年まで大谷と日本ハムで同僚だった投手である。マウンドに上がるなり、マーティンは鋭い牽制球を投げた。慌てて一塁に戻る大谷。このとき、大谷は一塁ベースに長い足をかけながら、手を伸ばしてファウルラインの内側に落ちていたゴミを拾ってファウルゾーンに投げたのだ。～中略～

「ゴミを拾う」行為は、NPB（日本プロ野球）ではしばしばみられる。名遊撃手として知られた宮本慎也（現東京ヤクルトスワローズ、ヘッドコーチ）は、併殺のチャンスになると目の前の土を手でならし、小石やゴミを拾った。これは併殺プレーの準備であるとともに、打者に対して「こっちに打ってこい」というアピールだったという。

実は、大谷翔平は意識してグラウンドのゴミを拾っている。チームの大先輩、稲葉篤紀（現侍ジャパン監督）が、ベンチ前のゴミを拾ったのを見て感動して、それを真似るようになったのだ。彼自身はそれを「人が捨てた”運”を拾っている」と表現した。「ゴミを拾う」のは小さな行為だが、大谷には自身の平常心を保ち、冷静にプレーするためのキーアクションになっているらしい。

よく知られているように、大谷翔平は花巻東高校時代から、「マンダラチャート」（目標達成シート）などで自分の将来像をはっきり描いていた。そしてそれに向かって自分で努力する習慣が身についていた。（広尾 晃）

記事では、大谷選手が高校1年のときの「目標達成シート」右の写真です。中心の「ドラ1位 8球団」というのが最終目標ですが、それを実現するための8つの要素のうちの一つに「運」を書いています。そして、その運をつかむために「あいさつ」、「ごみ拾い」、「部屋そうじ」、「道具を大切に扱う」、「審判への態度」、「プラス思考」、「信頼される人間になる」、「本を読む」を実践してきたわけです。



「ゴミを拾いなさい」と言われて嫌々している子も、「ごみを拾う」と「運」をつかめるかもしれないと言われると、子ども達も「大谷選手でもそうだから」と思うかも知れません。

学校でも、家庭・地域でも、大切なのは、やってほしい・身につけてほしいことを、大人が「させる」のではなく、子ども達が自分で「する」ように促す指導がとても大事です。子ども自身に目標を持たせることができれば、自分自身で改善できることも多くなると思います。

スポーツに限らず、成功する人は「持っている」とよく言われます。「持っている」とはいつでも、その人が何を持っているかは漠然としています。一般的には、日常ではなかなか経験できないような幸運や、よい結果をたびたびつかむ人のことを「持っている人」と呼ぶようです。しかし、「持っている人」がとりわけ運が良いというのではないようですので、日頃の言動、考え方といった生きる姿勢が大切なように思います。津保美の子も、大谷選手のように、夢へ向かい大きく羽ばたけ！！

エアコンで学習効果・食欲もアップ！

朝夕めっきり秋らしくなりましたが、昼間はまだ暑い日が続いています。昼休みには、夢中でサッカーやドッジボール、かけっこなどをして遊んでいますが、熱中症などで体のことが心配になります。

ただ、運動場で暑くても、2学期から、教室にエアコンが設置されたので、快適に生活・学習することができるようになりました。

職員からは「特に、午後からの授業中の様子が、全然違います。子ども達の姿勢がよく、学習の集中力が高まりました。（教える側もよかったです!）」。また、「暑い日は、（特に低学年）子ども達の給食を食べる量が少なかったのですが、エアコンが入り、たくさんの量を食べられるようになっています」。他にも、「汗が出て気持ち悪かったけど、・・よかった。」「暑さでボーとならなくなった。」「快適!」「風で、壁に貼っていたのが破れたり、プリントが飛ばなくていい。」等々、好評です。（感謝です!）

